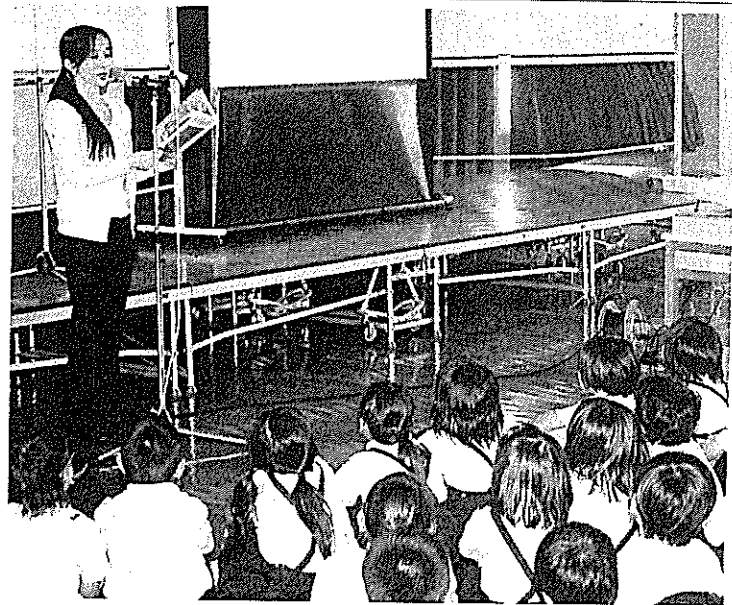


悩んでいる子に声かけて

東かがわ命の大切さ絵本で学ぶ

命の大切さを訴えた絵本「カーくんと森のなかまたち」の挿絵を担当した画家の夢ら丘実果さんと、作者の吉沢誠さんの授業が29



読み聞かせをする夢ら丘さん(東かがわ市立白鳥小で)

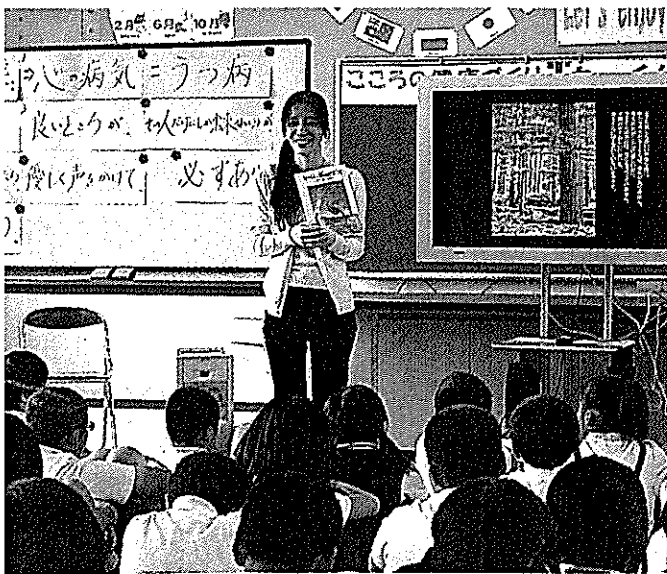
日、東かがわ市立白鳥小であり、児童約160人が読み聞かせなどに耳を傾けた。美しい羽も取りえもない

と悩むホシガラスのカーくんが、仲間の励ましを受け、木の実を運んで芽吹きを助けている役割を知り、元気を取り戻すという物語。ともに知人を自殺で失った経験を持つ2人が、2007年に出版した。

夢ら丘さんが朗読を担当し、最後に「人にはいい所が必ずある。悩んでいるときは誰かに話し、他の人が悩んでいたら声をかけて」と呼びかけた。吉沢さんも「元気がない人がいたら、周りが気付いてあげることが大切」と訴えた。

6年生の勝田采杜君(12)は「落ち込んだときは、友達に話して、自分のいい所を教えてもらおうと思う」と話していた。

16日までの自殺予防週間をとらえた啓発事業の一環として、県が招いた。2人は30日まで県内6小中学校で読み聞かせを行う。



子どもたちに心の健康について語りかける夢ら丘実果さん＝琴平町榎井

「自分の長所見つけて」 琴平 自殺防止 児童に絵本読み聞かせ

子どもたちの自殺をなくそうと全国で絵本の読み聞かせを続けている東京都の画家、夢ら丘実果さんの授業が29～30日、県内6小中学校であった。30日の琴平町立榎井小学校では夢ら丘さんが絵を手がけた絵本「カーくん」と森のなかまたち」を朗読、5、6年生計50人が耳を傾けた。

絵本は「ぼくなんか、いてもいなくてもいいみたい」と落ち込むホシガラスの「カーくん」

が、仲間と話すうちに自分に様々な長所があることに気づき、元気を取り戻す内容。

夢ら丘さんは、子どもたちに、うつ病は進行すると命に関わると説明。「皆にその人にしかできないことが必ずある。自分の良いところを探して。友達の良いところを見つけたらぜひ口に出して言って」と呼びかけた。

6年生の石井知馬君は「困っている人がいたら助けられるようにしたい」と話した。